MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌
2025年5月
第13号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所
発行人／錦　秀見
編　集／教区教化委員会メディア部会
印　刷／ブラザー印刷株式会社

駿河療養所「真宗講」の歴史

駿河療養所「真宗講」閉講について
「黒白二鼠図」絵解き
てら活（お寺の活動紹介）
真宗基礎講座 実施報告

撮影：杉浦 甚吾氏

駿河療養所「真宗講」閉講について

2024年11月29日、駿河療養所「真宗講」の報恩講が行われました。これをもって長年にわたって療養所における聞法の場、入所者である講員と岡崎教区からの参加者との交流の場として営まれてきた真宗講は閉講となりました。その日の様子を掲載いたします。

今後も真宗講の歴史を忘れず、教区としてハンセン病に関する学びに取り組んでいきたいと思います。

職員さんが用意してくれた真宗講の写真

報恩講の勤行

療養所内の納骨堂前での勤行

入所者とのお話

感話：渡邉成道氏

法話：錦教務所長

講員・参加者の集合写真

駿河療養所「真宗講」の歴史

第35組成福寺　北條　親善　（1959年生まれ）住所：伊豆の国市四日町981番地

「真宗講結成」

私たちの岡崎教区内にハンセン病療養所があるのを知っているだろうか。静岡県御殿場市にある国立駿河療養所である。第二次世界大戦末期の1944年に設立され、他の療養所から開拓として比較的元気な患者が集められた。やがて一般患者も入所して大人数となっていった。1948年には患者自治会が生まれ、時を同じく患者による宗教組織が次々と作られていった。浄土真宗を拠り所とする「真宗講」は、もっとも早く結成された。

「真宗僧侶訪問」

結成されてから15年後、1959年、沼津市真楽寺住職の勧山弘師が療養所を訪問してからは、定期的に法話集会が開かれ、仏事の導師も勧山師が務めるようになった。宗議会議員でもあった勧山師は教区内にも真宗講協力を呼びかけたが、協力は叶わなかった。勧山師は25年間一人で駿河療養所に訪問していたが、1984年には真宗講代表が亡くなり休会となる。以後、葬儀導師も入所者か職員の浄土宗僧侶が行っていた。

「真宗講再興」

15年間の空白があったが、不条理な隔離政策に加担してきたことへの大谷派謝罪声明が出され、大谷派として交流が開始され、1999年11月24日に真宗講再興の報恩講が療養所内にある駿河礼拝堂で勤められた。それからは毎月真宗講定例会が開かれ、岡崎教区からもたくさんの参加があった。定例会では法話だけではなく、合唱団コールアーバーのコーラス、紙芝居も行われた。報恩講・彼岸法要・花まつり・研修会といった行事では、住居訪問やゲートボール、親睦会、カラオケなどで盛り上がった。

だが、私が駿河療養所に初めて訪問し、真宗講が再興した25年前は200人近くおられた入所者も今は30人となった。新型コロナ流行時は定例会も開くことができなかった。

「閉講式」

2024年11月29日、真宗講の閉講式。療養所からは真宗講代表の杉浦さん、自治会長の小鹿さん、久しぶりに会えた良知さんと職員の方々。大谷派からは、教務所長をはじめ15人が集まった。自治会の方は「真宗講のあゆみ」を写真パネルで掲示してくれていた。

最後の真宗講集会。正信偈を唱和し、錦教務所長の法話、私と裾野市の渡邉成道さん（第33組長教寺住職）が感話し、代表の杉浦さんを囲んで最後の座談会。たくさんお土産をもらい、私たちは駿河療養所をあとにした。

真宗講は閉講したが、ハンセン病問題への取り組みは続いている。これから私たちはどんな関わりができるのか、今まで関わってきた入所者、真宗講の皆さんから問われているように思う。

コールアーバーによるコーラス

教区内僧侶による絵解き

「黒白二鼠図」絵解き

第16組 本證寺
小山 興円
住所：安城市野寺町
野寺26番地

『仏説譬喩経』に説かれるお釈迦さまの喩えを画にしたものが、この「黒白二鼠図」です。

――一人の旅人が荒野を歩いていると、突如後ろから悪ゾウに襲われます。旅人は必死に逃げます。命からがら古井戸に垂れた木の根につかまって難を逃れます。ホッとしたのも束の間、見上げると、今つかまっている根を黒と白の2匹の鼠が齧っているではありませんか。

周りを見渡すと、4匹の毒ヘビが四辺にいて、旅人に襲い掛かろうとしています。下を見れば恐ろしい龍が、旅人が落ちてくるのを今か今かと待ち構えています。

さらにいつの間にか、つかまっている木そのものが野火で燃え盛っているのがわかりました。

このままでは、か細い根はちぎれて、龍や蛇に食べられてしまいます。旅人は恐怖に身を震わせました。

恐怖で大声をあげようとしたその時です。旅人の口に、木の根元にあるハチの巣から甘い甘い蜜がポタリポタリと五滴、口のなかに落ちてきたのです。その何とも言えない蜜の甘さに心が奪われ、もっと甘い蜜をなめたいと、今にも切れそうな木の根をゆさゆさと揺さぶっていたのです。

▲ 黒白二鼠図（本證寺所蔵）

こう語り終えられたお釈迦さまは静かにお尋ねになりました。「さて、この旅人とは一体誰の事でしょうか？」――

「荒野」とは私たちの永い迷い（無明）「旅人」とは凡夫、つまり私。「悪ゾウ」とは無常、「井戸」は人生そのもの、「木の根」は命。「黒白の2匹の鼠」は夜と昼（時間）。「4匹の蛇」は私を構成する要素、地・水・火・風の四大。「龍」は死、「野火」は老病。「五滴の蜜」は眼（色）・耳（声）・鼻（香）・舌（味）・身（触）の五欲を表しています。

まさに今が臨終のはずなのに、世間の楽に夢中になる愚かさを鋭く説いた喩えではありますが、この図は立体的に見る画だと気づかされます。私たちの目から見れば、この旅人（私）はただの愚か者です。しかし、阿弥陀さまの目は深く凡夫の罪業を見抜き、だからこそ放っておけないと「南無阿弥陀仏」となってすでに私に届いているのです。

願成寺マルシェを開催

第23組 願成寺（がんじょうじ）　畝部（うねべ）　真紀（まき）
住所：豊田市畝部東町中切142番地

２０２４年９月23日に第１回願成寺マルシェを開催しました。前日までのじとじとした暑さが嘘のように秋晴れの爽やかなお天気に恵まれ大勢の人たちに来ていただきました。

そして今年の２月11日に第２回目の願成寺マルシェもまた寒いけどいいお天気に恵まれ開催されました。前回よりもたくさんの人が来てくださいました。

願成寺マルシェを始めるきっかけとなったのは、２０２４年元日に起きた能登半島の震災で、救援金の募金をお寺で集めることはできないかな？と思ったことです。でもどうやって？自坊の報恩講も終わっていたのでそれは難しいことでしたし、それまでも〝もっと多くの人に、特に若い世代にお寺に来ていただいて、お寺を知ってもらいたい〟と思っていましたが、何から始めたらいいのか？何をどうしたらいいのか？わからず悶々としていました。

そんなある日、ご門徒さんたちから「願成寺でマルシェやりたいです」「ぜひマルシェをやろう」と言われ「あら！素敵！やりましょう」と二つ返事で開催を決めました。でもただキッチンカーやバザーを呼ぶだけじゃもったいないので、９月のお彼岸会の日にあて、〝午後からの本堂での法話会を目玉にしよう！〟と決定。実行委員会を立ち上げてメンバーを募り計画を立てて準備してきました。

しかしマルシェの出店経験があるメンバーがいても主催者になるのは誰もが初めてだったので、何度も何度も会議を重ねて計画を練りました。

当日は実行委員長の声掛けで願成寺の総代さんをはじめご門徒の皆さん一丸となってマルシェを盛り上げました。結果は大成功。そして募金もたくさん集まりました。

第２回目のマルシェは寒い時期なので、本堂での〈音楽コンサート〉を計画しました。義母が所属するコーラスグループによるディズニーやスタジオジブリの歌。シンガーソングライターのフォークソング。そして大谷派僧侶デュオによる音楽法話でした。皆さんコンサートをとても楽しんでくださいました。

それと同時に子ども向けのイベントも開催したのでたくさんの子どもたちがお寺に来てくれました。

そして募金も前回よりもたくさん集まり早速教務所に納めました。大成功です。

次回は今年９月の予定です。今回出た反省点を踏まえてこれからもマルシェをより良く継続していきたいと思っております。

大勢の方でにぎわう境内

焼きいもを焼くようす

真宗基礎講座 実施報告

第4組 應通寺
大河内（おおこうち） 智仁（ともひと）
（1985年生まれ）
住所：豊橋市花園町93番地

岡崎教区は組（そ）単位で「真宗基礎講座」の実施を進めています。この講座は有縁の方々に気軽に教えに触れていただき、僧俗ともに学び合うことを目的としています。このたび第4組において講座が実施されましたので、報告を掲載いたします。

2025年2月8日、岡崎教区第4組にて第1回真宗基礎講座を開催いたしました。前日からの寒波の影響で御門徒さん方の参加を心配していましたが、50人を超える方々に来ていただくことが出来ました。

第4組の真宗基礎講座は、はじめての方にも分かりやすい言葉で伝える事を第一に若手僧侶が企画を一から進め、参加者の対象をお寺にご縁を持ったばかりの方や足を運びはじめたばかりの方を中心に募集しました。

スタッフ会議で、「クイズ」を取り入れるのはどうか、という意見があがりました。クイズを軸に講座を作ることができればあまり知らない方も楽しみながら考えることができるのではないか、と意見がまとまり「クイズで考える真宗基礎講座」が動き出しました。

準備期間で難しかった問題のひとつが、どういう言葉なら分かりやすいのか、という点でした。例えば普段の会話でも聞き慣れない言葉がでると、「え?何て言った?」と聞き直したり意味を聞いたりしますが、真宗の話になるとあまり聞き返されない事が多いのではないでしょうか。だからこそ伝わる言葉は重要な事であり、課題のひとつです。それと同時に聞きやすさの問題です。はじめての方に対してどういう内容にするのか。私たち僧侶の見方と参加される御門徒さんの見方との感覚の差といいますか、初回であるがゆえにこれも大きな課題となりました。

スタッフ会議を重ねていく中で、御門徒さんの一番身近な真宗とのつながりであるお内仏に焦点を当ててそこから話を広げていこうとなりました。

第1回はクイズの中身を「お内仏は何をするところか」「阿弥陀如来の特徴は何か」「大谷派のお仏飯の伝統的な形は何か」という3つに絞り、それぞれのご家庭に帰られた後にも確かめや実践ができるような形にしました。第2回以降は参加者の様子を伺いつつ、次につなげていきます。

当日全体の雰囲気は非常に良く感じられ、時に笑いもあるような今までにない楽しさのある講座になったのではないかと私は受けとっています。クイズを取り入れることで一方的な伝え方ではなくなり、それぞれが思い考えて参加していく。参加者の身近なお内仏を中心とすることで一層の効果があったと思いました。

この雰囲気で最後までスタッフと参加者とが一緒になって作り上げていく事が大切なのだと思うとともにお寺と御門徒さんとの距離が近づくきっかけの一つにしたいとスタッフ一同思っております。

合掌

映像を使ってお話をしました

沢山の御門徒さんに参加していただきました

みんなの掲示板　おいでんみりん

日 日時　会 会場　講 講師　内 内容　テ テーマ　持 持ち物　費 参加費　対 対象　問 問合せ

団体

教区坊守会

「若坊守研修会」

日 5月20日㈫　10時～12時
講 ジェシー釋萌海 氏（京都教区高雲寺）
テ いのちはだれのものですか
費 500円
会 問 岡崎教務所
☎ 0564-22-2136

岡崎教区声明研究会

「第2回　公開講習会」

日 5月14日㈬　14時～16時
講 村上　奈津子 氏（大阪教区超願寺）
内 声明のための心地よい発声法を学ぶ
持 念珠、筆記用具、真宗大谷派勤行集（赤本）
費 500円（声明研究会会員は無料）
会 問 岡崎教務所
☎ 0564-22-2136

「声明講習会」

日 6月13日㈮　14時～16時
講 岡崎教区准堂衆会
内 参加者の希望に応じて決定
持 希望する内容に必要と思われるもの
費 3、000円（年会費）
※一度だけの参加でもこの金額となります
会 問 岡崎教務所
☎ 0564-22-2136

岡崎教区教化団

「本證寺布教大会」

日 5月21日㈬　10時～15時
内 12人の僧侶がリレー方式で法話を行う
持 念珠、おさい銭
費 無料
備 昼食（おにぎり）あり
会 問 本證寺（安城市野寺町野寺26）
☎ 0566-99-0221

地域

三河地域教化センター

「別院さんの土曜法話会」

日 5月17日㈯　15時～17時
テ 歎異抄第7章「念仏者とは何者か」
日 6月21日㈯　15時～17時
テ 歎異抄第8章「不回向の念仏」
講 市野　智行 氏（同朋大学准教授）（2回とも）
費 500円（2回とも）
持 念珠、（お持ちの方は）真宗聖典
会 問 三河別院
☎ 0564-21-0625

赤羽地域教化センター

「儀式作法研鑽会」

日 6月10日㈫　17時～18時
講 織田　顕慶 氏（第8組宿縁寺）
内 真宗大谷派声明集でのお勤めの稽古
費 無料
持 真宗大谷派声明集
会 問 赤羽別院
☎ 0563-72-2308

有志

「正信偈学習会」

日 ① 5月9日㈮　13時～17時30分
会 ① 三河別院東別院会館
日 ② 6月13日㈮　13時～17時30分
会 ② 豊橋別院
日 ③ 7月9日㈬　12時30分～10日㈭　12時
会 ③ 富山教務所
講 四衢　亮 氏（岐阜高山教区不遠寺）
費 ①② 5、000円　③ 10、000円
服 間衣、輪袈裟、（門徒）肩衣
持 真宗聖典、筆記用具
問 ① 小栗貫次　② 本多寛靖
☎ ① 090-4252-7146　② 090-2182-4599

組、有志で公開学習会の案内掲載希望の場合は教務所へお問い合わせください。『MAST』は年3回の発行予定です。紙面の都合で、掲載できない場合があります。

※内容は変更となる場合がございます。詳細は教区・団体については教務所、地域については各別院までお問合せください。

『MAST』表紙写真募集のお知らせ

『MAST』は表紙写真を教区の皆さまから募集しております。

次号第14号は9月の発行となります。写真撮影が趣味の方、ぜひお持ちの写真をご提供ください。スマートフォンで撮影したものでも大丈夫です。お待ちしております。

※都合上、提供いただいた写真を使用できない場合もございます。

【提供方法】

岡崎教務所のメールアドレス：**okazaki@higashihonganji.or.jp**宛てに写真のデータを添付してご送付ください。

これまでの表紙写真

岡崎教区LINE公式アカウントについて

この度、岡崎教区LINE公式アカウントを開設しました。教区内の慶弔や教化委員会の事業案内、各別院の諸法要をはじめ、災害情報の共有、教務所閉所日などを発信しますので、ぜひご登録ください。

編集後記

デジタル全盛の時代だからでしょうか、情報は次々と目の前を流れていき、後には何も残らないということが多々あります。

子ども会をやっていても、皆で共有できるアニメや本もなく、法話のネタ作りにも苦労しています。

毎回、誌面絵解きを担当させていただいておりますが、皆で同じ絵を見て教えを味わう絵解きは、子どもたちの目も釘付けになり、心に残る最良のメディアといえるかもしれません。

この『MAST』も同様です。皆の心に残るアナログメディアを目指します。

（編集：おやま）

みなさまの声をお聞かせください

『MAST』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける広報誌にするためにみなさまのご協力をお願いします。

岡崎教務所（MAST担当）okazaki@higashihonganji.or.jp

法語

迷惑をかけない生き方はできません。
一番大切なことは、人に迷惑をかけて
いる。その自覚です。

祖父江　文宏

祖父江（そぶえ）　文宏（ふみひろ）

1940年（昭和15年）～2002年（平成14年）愛知県名古屋市に生まれる。児童養護施設暁学園施設長、NPO法人「子どもの虐待防止ネットワーク・あいち」理事長など歴任。

※この法語は『日めくり法語　一語一遇』（東本願寺出版）より抜粋しました。

見つけよう、生まれた意義と生きる喜び
～生活の中心に南無阿弥陀仏を～

岡崎教務所　☎ 0564-22-2136

岡崎教区ホームページ　岡崎教区facebook